



### スポーツを生かした地域活性化

佐藤 剛太

**問** 復興マラソンに参加する方々に岩沼市を知ってもらう機会をつくる必要がある。岩沼駅は、参加者のシャトルバスの停留所になり、多くの方が集まり、利用する。9月30日、10月1日は、駅前広場を活用し、来訪する多くの参加者のために、地域の魅力を発信できる催しなどを行い、地域活性化につながる必要があると思うがどうか。

**市長** 地域活性化につながるというご提案ですが、このマラソンは今後、フルマラソンの公認コースを目指しています。公認になった場合は数年間、連続して続けなければならぬという制限がありまので、1回のみならず、公認となれば、ずっと続きます。これを生かして地域の活性化につなげていきたいと思えます。

### 駅前で地域活性の機会を

**問** 岩沼市にも商工会青年部やあぶくま青年会議所などの地域活性のために活動している団体が多くある。ぜひそうした団体に声掛け

して、駅前の活性化事業を行ってはどうか。

**市長** マラソンの具体的な開催内容がまだわかりません。しかし、今回は、被災地の復興した姿を見ていただき、今までのご支援に感謝するという思いがあります。商工会青年部やあぶくま青年会議所にぜひおもてなしをしていただきたいと思えます。

**問** 岩沼市の気候や交通の利便性を生かし、観光とスポーツを組み合わせたスポーツツーリズムに積極的に取り組むことで、交流人口拡大の柱になると考えるがどうか。

**総務部長** 今年は、岩沼市のシンボルであります千年希望の丘を望みながら、多くの方が走る復興マラソンが開催されます。また、民営化された仙台空港にランナーズポートも設置されましたので、これらを活用した交流人口拡大についてPRを進めていきたいと思えます。



### 行財政制度の改革の必要性

布田 一民

**問** これまでの行財政制度では、人口増加・経済成長を背景として設計されてきた。しかし、生産年齢人口の減少によって地方税の減収が懸念される。また、高齢化により社会保障関連の支出の増加や住民が求める行政サービスの多様化・高度化などで、歳出・歳入の両面で多大な影響が生じてくるのではないか。この変化をどのように捉えているのか。

**市長** 今後、どのように立ち向かうか、探っているところであります。ハード、ソフトの両面から考えていく必要があります。

**問** 行政改革では、これまで採用の抑制による歳出削減が中心に行われてきた。民間企業に比べて、働き方や業務プロセスの見直しなどの取組が遅れていると考える。地方創生を一過性の政策課題で終わらないためにも「経営能力」を育てる改革が必要ではないか。

**市長** 職員と議論しながら、的確に対応できる組織を目指していきたいと思えます。

**問** 現在の地方行財政制度では、

個々の地方自治体における税収不足が国の財政調整によって補填されている。そのため住民の受益と負担に大きな乖離（かいり）が生まれるのではないかと懸念している。改革をしっかりと行い、財政規模を膨らませて受益と負担の乖離をなくす努力が必要ではないか。

**市長** 交付税の確保と財源の改革をセットで考えていきます。

### 見える行政を制度化に！

**問** 以前、「自治基本条例の制定」について提案をしたことがある。「いわぬま未来構想」を進めるにあたり、岩沼市の組織運営や活動に関して基本的な事項を定めた条例を定め、これを頂点に条例や規則を体系的・総合的に編成し直すためにも「岩沼市見える行政の仕組み」を徹底する政策を制度化するべきではないか。

**市長** 課題に向けて、総合戦略を地方創生の枠の中で行っています。大いに議論させていただき、皆さまからご意見をお聞きしたいと思います。